

シンポジウム7 (精神保健福祉士部会シンポジウム)

S7-1

他職種チームの統合的ケースマネジメント-米国におけるEAPおよびPSW経験を踏まえて

○市川 佳居^{1,2}

1) レジリエ研究所 (株), 2) (一社) 国際EAP協会 日本支部

はじめに

本発表では、筆者の経験に基づく、米国の企業やクリニック、および国内の米系企業における他職種チームの統合的ケースマネジメントについてご紹介する。

アメリカのPSWについて

米国のPSWはそれ自体は資格ではなく、職種名、つまり組織内の肩書であり、LCSW (Licensed Clinical Social Worker) という資格(州によって呼び方は微妙に違う)を持っているか、あるいはLCSWのスーパービジョンを得ながら、仕事をしている。LCSWを取得するには、ソーシャル・ワークの大学院修士号を持っていることが必要である。その後、2年間以上、合計3000時間の現場の経験を経て、資格試験を受ける。

LCSWの職場は主に、精神科の医療機関、また、総合病院のソーシャルワーク部門、個人開業のサイコセラピスト、そして産業分野におけるEAPである。精神科クリニックや病院においておけるLCSWは、精神科医、精神科専門看護師、臨床心理士とチームを組んでの患者へのケアを行う。LCSWの役割は、患者へのアセスメント、治療計画の作成、精神科医の治療のコーディネーション、心理療法、ケースマネジメント等である。総合病院のLCSWは緩和ケア、小児科病棟など、心理社会的に支援が必要な患者に支援を行う。また、患者の退院後の心理社会的支援の計画をたてる。

産業領域のPSW

米国では、産業領域というと、EAPが中止である。EAPカウンセラーの多くはLCSWである。EAPは人事、法務、セキュリティ、看護師等とチームを組んで、個人的問題が会社の生産性に影響を及ぼし得る社員の問題解決にあたる、中心人物である。EAPには、社内専門家と定期的にケースに関する会議を開催し、問題がエスカレートしないうちに解決する問題解決のステップがあり、統合的ケース・マネジメントと呼ばれている。本発表ではその中身を事例をいれながらご説明する。